

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：ぶどうの実登戸園	種別：川崎市認可保育所	
代表者氏名：堀 初恵	定員（利用人数）：30名（33名）	
所在地：川崎市多摩区登戸新町187スカイノート101		
TEL：044（931）3550	ホームページ： https://budou-ki.co.jp/noborito/index.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日 2010年 4月 1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 ぶどうの木		
職員数	常勤職員：10人	非常勤職員 9人
専門職員	保育士：園長 1人	保育補助（資格なし）：2人
	保育士：副主任 2人	栄養士：2人、調理師：1人
	保育士：10人	事務員（子育て支援員）：1人
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）
	乳児室 2室 幼児室 1室、沐浴室（トイレ併設）1室、調理室 1室、 トイレ 1室、事務室 1室、 職員休憩室（更衣室）1室	建物の構造：鉄筋コンクリート3階 建ての1階 延べ床面積：154.86㎡ 園庭 なし

③ 理念・基本方針

【理念】

ひとが「シアワセ」であるとは、ひととひとのつながりや広がりがうまくいくことを基盤にします。一人ひとりが大切にされ、成長の根を育み、希望の種を宿すことが可能になるのです。こうした土壌のなかから、子どもたちは、やがて自ら希望を切り拓き、ひとと共生し、社会に貢献する”ひと”として、芽吹いていくのだと私たちは信じています。『シアワセな未来を創るひとを育てる』ことこそがぶどうの木のコアパーパス（社会的存在意義）だと考えています。

【基本方針】

- 勇気づけの保育
- 裁かない保育
- 見守る保育

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

ぶどうの実登戸園はJR南武線・小田急線登戸駅から徒歩10分のところに立地しています。静かな住宅地にあり、近くには公園が点在しています。多摩川も近くに流れ、畑や神社もあって、子どもたちがのびのびと活動できる環境に恵まれています。

ビルのオーナーが町内会や消防の活動をしているため、お祭りや防災訓練などの活動に積極的に参加して、地域との良好な関係を築いています。

現在1～5歳児の33名が在籍しています（定員30名）。限られたスペースを工夫し、子どもがワクワクして、安心できる空間づくりに努めています。園の中心には床暖房の入った広めの廊下があり、絵本の読み聞かせや異年齢の交流の場として活用しています。

【園の特徴】

「シアワセな未来を創るひとを育てる」ために「一人ひとりを大切にする子ども主体の保育」を実践しています。保護者との信頼関係を構築し、保育者に受け止められる心地よさの中で、子どもが自ら「自分づくり」をしていくことを大切にしています。

設置法人ぶどうの木は6つの保育園と学童保育を運営しています。系列6園の5歳児と学童が協同して「ぶどうつながり隊」を結成し、子どもを中心とした社会貢献や、地域とつながるイベントを積極的に開催しています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年 5月11日（契約日） ～ 2021年12月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2013 年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1. 保育理念の実現のための組織的な取り組み

年3回法人合同研修を行い、理念の理解や保育の向上のための学びを深めています。法人研修では理念を伝えるだけでなく、理念を日常の保育に実践していくための内容にしています。今年度は、担当するクラス（年齢）でグループ分けをして、保育中の写真を見ながら、どのような関わりができるのかについて意見を出し合い、子ども一人ひとりの育ちを大切にした保育について確認し合っています。

園では年2回、中間総括と期末総括で保育の振り返りを行っています。さらに、職員個人、クラスや専門部署ごとのチームでも、より良い関わりや環境について話し合っています。総括の結果はクラスごとにまとめて保護者にも配布し、「ぶどうの実の保育」を伝えています。

2. 子どもが遊びを選択し、しっかりと遊びこめる環境づくり

1,2歳児のクラスでは、自由遊びの時間は低いついたてを使って部屋を仕切り、一人ひとりがくつろいだり、落ち着いて遊びこめる環境を作っています。

幼児クラスのロフトには机といすが置かれ、集中してパズルなどを取り組める場所になっています。また、自由遊びの時間に、自分が取り組みたい遊びに自分のマグネットを置いて予約する「プランニングボード」で、自己選択や自己決定の機会を作っています。遊びには定員があるため、子どもたち同士で交渉し、話し合う力がついでいきます。

職員はぶどうの実で育つ子ども一人ひとりが興味を持てる遊びを見つけ、遊び込めるように見守り、人的・物的環境を整えることに努めています。

3. 伝統的な食文化を大切にした食育活動

園では給食を「ぶどうの愛情ご飯」と呼んでいます。食は健康で質の高い生活を送る基本だと捉えています。食品の安全と質にこだわり、「だし」を基本とした和食中

心の献立です。

毎月全国の郷土料理をメニューに組み込んでいます。そばろ納豆や五平餅などを食べながら、日本の食文化について学ぶ機会にしています。七夕・クリスマス・ひな祭りなどの行事には特別メニューで季節感を感じ、味わっています。

また、梅ジュース・お月見団子・うどん・夏野菜ピザ・恵方巻などを子どもと一緒に作っています。

◇改善を求められる点

1. 有事における責任体制の明確化を

園長は、保護者や職員に向けて自身の保育所に関する運営方針などを明確に発信しています。職務分掌は作成していますが、さらに有事における園長の責任や、園長不在時の権限についても明文化することが望まれます。

2. 事業計画を評価する仕組みの構築を

事業計画は、職員の意見も参考に作成されていますが、実施手順、評価時期、評価方法などの基準についてより具体的に定め、進捗状況についても職員に周知し、理解を得ることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審して

ぶどうの実登戸園は平成22年に開園し、今年で11年目になります。平成25年に第三者評価を受審してから2度目となります。

私自身、園を立ち上げてから2年後には他園に異動し、10年ぶりに登戸園に戻ってきたので、園を再構築するつもりで受審させていただきました。着任してまず取り掛かったのは、スタッフ体制の安定化と環境の整備です。質の高い保育を実践するためには、まずスタッフ自身が安心して保育に向き合えるという事が大切だと考えたからです。スタッフは園がより良い方向に変化していくのを実感しながら、園運営の中身の改革に対して主体的に取り組むようになってきました。自分たちで課題を見つけ具体的な改善策に取り組みながら少しずつ改善が進むようになってくると、保育の質も比例して向上してきます。

コロナ禍において様々な障壁もありましたが、子どもの心身の成長を真ん中にして、出来ることは何かをみんなで考えながら保護者とも連携して取り組むことで、休園することもなく今のところ無事に保育を継続することが出来ました。

どんなにうまく運営できていると思っても、必ず課題になっていることは盲点としてあると思います。この第三者評価をきっかけにして、自己評価を行い、チームで何度も話し合いを重ね、課題を抽出してきました。以下の点です。

○安全管理・リスクマネジメント

事故防止やアクシデント、ヒヤリハットなど書式の上では整備しているが、チームで振り返る機会が少ない。

嘔吐処理・救急救命法など実技研修については定期的実施した方が良い。

○マニュアルの周知と活用

マニュアルは整備されているものの、マニュアルに基づいて手順の確認をしたり、見直しをすることがない。定期的にマニュアルの見直しを行う。

○情報共有のしくみと徹底

発信はするが受信の確認をしていない。ひとり一人が主体的に受け止めることが大切。

○環境

プライベートの保障については、パーティションを活用するなどしてスペースを確保する。

自分たちで出した課題の他に、第三者評価の調査員の方から客観的な視点で課題を見つけていただき、具体的にひとつずつ改善していきながらより良い保育の実践を目指していきたいと思います。第三者評価を形式的なものとするのではなく、保育所が子ども・保護者・スタッフにとって共に育ちあうことのできる場として必要とされる社会的な資源となるように、常に謙虚に研鑽し日々進化し続ける保育園でありたいです。

学びと気づきの機会をありがとうございました。

2022年1月11日

ぶどうの実登戸園 園長 堀 初恵

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり